

REVIEW
2024

世界視力を備えた次世代トップ研究者
育成プログラム

文部科学省「世界で活躍できる研究者戦略育成事業」

LEINSICHT

Program for the Development of Next-generation
Leading Scientists with Global Insight

事業前半を振り返って ～さらなる普及に向けて～



優れた研究者は、独自性ある着眼点をもって仮説を育み、それに基づいて実験・観察等で得られた成果を世界に向けて公表し、世界の研究者からのコメント・批判を受けて仮説の推敲・強靱化を図る一連の作業をすることができます。それは、彫刻をひとつの角度だけから見ている個人レベルでの思惟を、異なる学術経験・文化・思考方法をもつさまざまな研究者の助けを得ながら、彫刻を異なる多くの角度から見ることによって完全なものに近づけようと推敲する作業であると言えるでしょう。そのためには、研究者は自分を多くの研究者の前に露出させ、建設的な議論を導き、自分の仮説を修正する気構えと技術をもつことが重要です。

我が国では、いかに優秀であっても言語・地理上の障害に加えて、ひとままでの積極的な発言をためらうという悪弊のために、議論で自分を鍛えることを苦手とする研究者が多いことも事実です。「世界視力を備えた次世代トップ研究者育成プログラム」(L-INSIGHT)は、世界で活躍したいと願う若手～中堅研究者をフェローとして採用し、研究の進め方や論理の導き方、また研究者としてのwork-life balanceなどについて世界で活躍する研究者がどのように実践しているのか、その多様性を学び、学んだ成果を自身の研究活動に生かすためには能動的にどのようにすべきか、という自問を通して実践的な成果を得ることを目的としています。

昨年度末、L-INSIGHTは事業の前半にあたる開発フェーズを終え、令和6年度より普及に向けた改善のフェーズに入りました。また、第1期フェローがL-INSIGHT初のアラムナイとなりました。彼ら・彼女らの世界での活躍はこれから本番です。L-INSIGHTを通じて得られた方々との繋がりを育て、学术界を盛り上げていかれることに期待します。また、拠点は、本プログラムを学内外で広く活用いただくためのさらなる工夫をいたします。

本プログラムにより、より多くの「世界で活躍できる研究者」が生まれることを期待しています。

L-INSIGHTプログラムマネージャー

若手研究者戦略育成拠点長

学術研究展開センター (KURA) センター長

京都大学 副学長 (学術研究支援担当)

石川 冬木

目次

3 巻頭言

概要

- 6 事業の構成
- 7 拠点・事業運営体制

詳細

1. プログラム開発・実証について

- 11 基本理念と考え方
- 12 若手研究者の長期目標の実現を支援
- 14 提供プログラムの構造と普及

2. 提供プログラムについて

基幹プログラム群

- 16 豪州・国際連携プログラム
- 17 欧州・国際連携プログラム
- 18 OIST・国際連携プログラム
- 18 産学横断プログラム
- 19 世界に誇る研究者に学ぶ
- 20 L-INSIGHT キャリアプログラム

CToP

- 21 名誉教授メンター制度
- 22 Global Insight Individual Logic Plan (GIILP) 面談
- 23 L-INSIGHT ワークショップ

実践プログラム群

- 24 研究費・渡航費・招聘費
- 25 論文投稿支援
- 25 フェロー提案プログラム
- 26 融合研究着想コンテスト

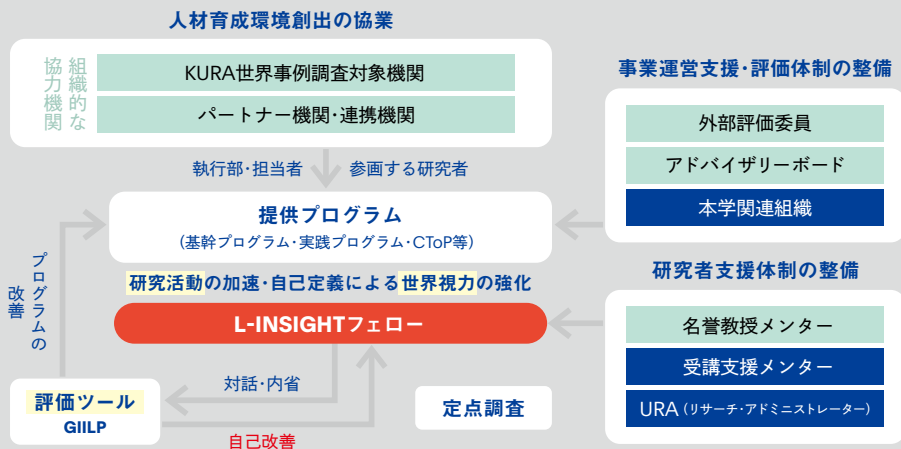
概要

事業の構成

拠点・事業運営体制

LEINZSICHT

事業の構成



自由の学風を継承してきた京都大学では、研究者育成を制度として取組む上でも、若手研究者のもつ個性を尊重しています。キャリアの多様化が進む若手研究者にとって、長期的展望を開拓し、維持できる環境はますます重要性を増しています。このような現状を踏まえ、本事業では、若手研究者の主体性を活かし、その潜在能力を最大限に引き出す育成プログラムを開発しようとしています。

研究を通じて未来社会に貢献し長く研究者として活躍するためには、研究活動を多様な側面から理解し、いち研究者としてだけでなく、地域産業や国際社会に至る異なる立場の目線から洞察し実行することが肝要です。

本事業では、このような行動特性（コンピテンシー）を世界視力と銘打ち、プログラム開発の基盤となる独自のコンピテンシー・フレームワークを設計しています。（P.11参照）

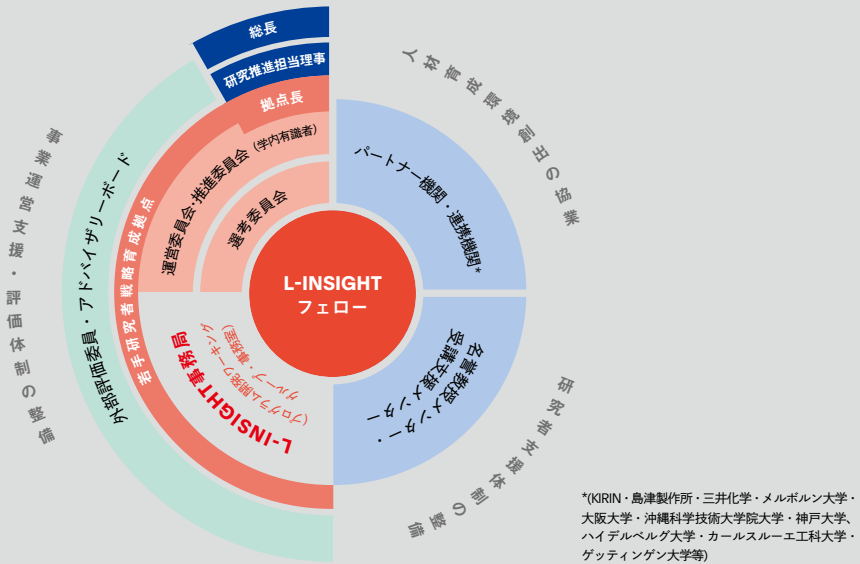
このフレームワークを基盤として、個々が目標と目標に至るプロセスを定め、その達成に必要な視座、知識、行動といったコンピテンシーを高めるプログラム群を構成しています。基幹プログラム群（Core Programs）・実践プログラム群（Practical Programs）および、プログラムでの経験と研究活動を円滑に繋ぐCToP（Core to Practical）の3つの異なる形式のプログラムは、特に研究者のコアサークルの形成に照準を合わせた内容としています。

さらに、研究者個人が各種プログラムの効果を自ら検証するツール（Global Insight Individual Logic Plan, GIILP）を開発し、研究者自身の目指すコンピテンシーへの個別プログラムのインパクトを振り返ることで、プログラムの効果測定（有効性評価）を行っているほか、各研究者の研究実績を経年的に測るモニタリング（定点調査）を導入するとともに国内外の有識者から意見を取り入れ、プログラムの開発・実証・改善を実施しています。若手研究者の自己分析は、名誉教授メンターや受講支援メンターらとの面談により支援しています。

以上を実現するため、学内の各組織はもとより、国内外の研究教育機関および企業と連携関係を構築して多様な視点による機会提供を実現しています。開発されたプログラムは国内外の研究者に活用いただくため、その普及に向けて継続的に改善に取り組んでいます。

拠点・事業運営体制

プログラムの効果実証は、フェローと共に実施しています。若手研究者が自ら目標として掲げる活動を組織的に支援するため、国内外の連携機関やトップ研究者との協働を進め、事業推進環境を創成しています。また、国内外の有識者グループから若手研究者戦略育成拠点（拠点）に対して事業に対する助言を受けて、プログラム改善と事業運営体制を行っています。



若手研究者戦略育成拠点 | 運営委員会・推進委員会・事務局

若手研究者戦略育成拠点を学術研究展開センター(KURA)内に設置。拠点長がプログラムマネージャーを兼任し、拠点内には、実施責任者である研究推進担当理事を含む、事業全体の最高意思決定組織である「運営委員会」、学内有識者とともにプログラムの立案、開発及び策定を行う「推進委員会」、L-INSIGHTフェローの選考を行う「選考委員会」を組織しています。事業運営は、「プログラム開発ワーキンググループ (WG)」と「事務局」から成る「L-INSIGHT事務局」が行なっています。

L-INSIGHTフェロー | 異分野コミュニティによる効果実証

次世代トップ研究者の育成に有効なプログラムを開発・普及するため、本事業では、公募により選出された高い独創性と志を持つL-INSIGHTフェローと共にプログラムの効果実証を行なっています。フェロー期間は概ね3年間です。L-INSIGHTフェローは令和2年6月より第1期募集を開始、令和6年度までに第4期募集を行い、京都大学の人文社会系、医薬生命系、理工系に跨る14部局に所属する若手研究者累計30名をフェローとして選出しています。

パートナー機関・連携機関 | ダイバーシティ環境創出によるプログラム実施環境の整備

国内外の連携機関と共に、日常的に得られにくい文化圏・分野・世代を超えた議論などの機会を提供プログラムの内容に応じて共創しています。L-INSIGHTフェローをはじめとする若手研究者にとって意義がありフレキシブルに活用できる機会を創出しています。

アドバイザーボード・外部評価委員 | 運営支援・評価体制の整備

L-INSIGHTフェローに対して俯瞰的な示唆を与え、事業運営に対して専門的・国際的な見地から助言を与えるアドバイザーボード、および、人材育成に関する有識者である外部評価委員を置き、毎年意見交換を行なっています。令和5年度には外部評価委員会を開催し、事業開発フェーズにおける評価と助言を頂きました。

詳細 1.

プログラム開発・実証について

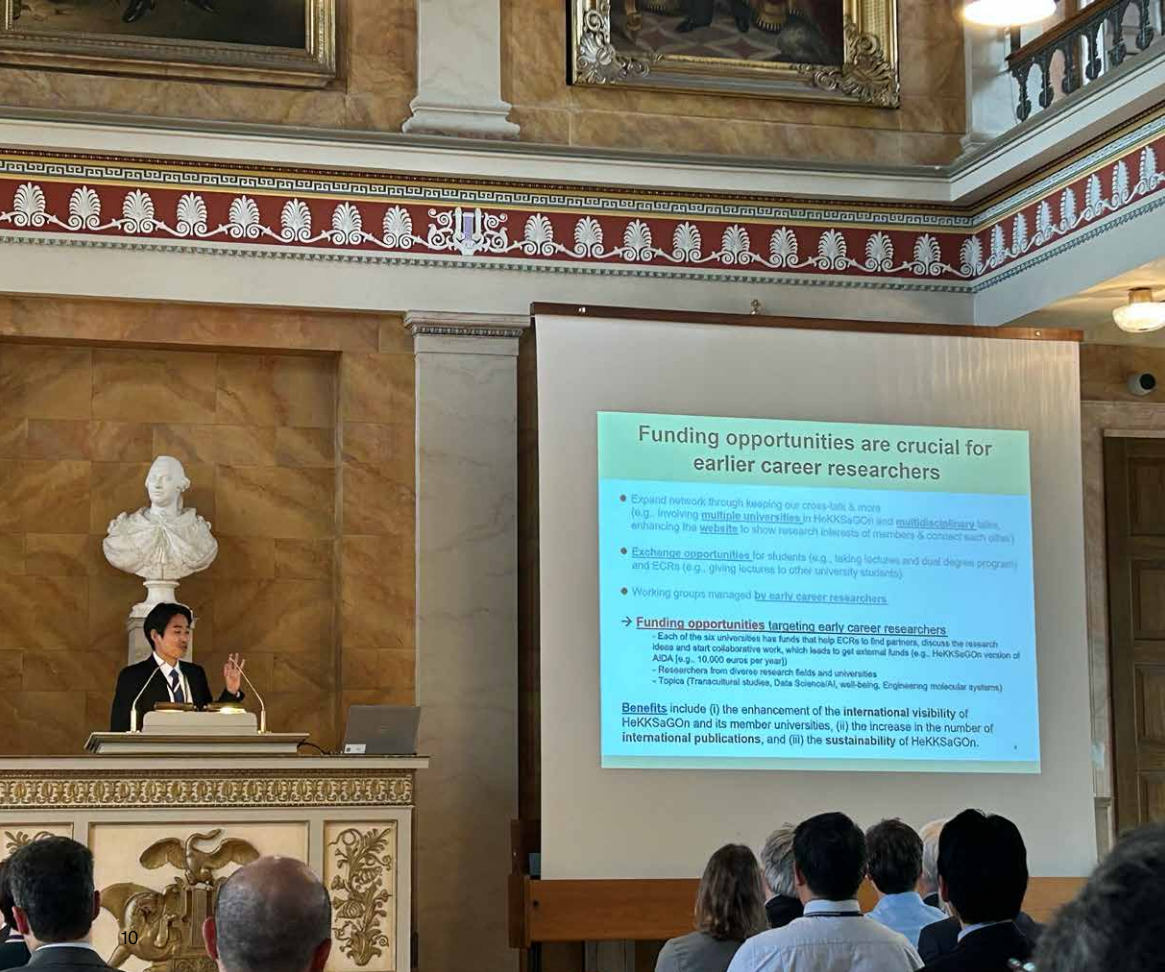
基本理念と考え方

若手研究者の長期目標の実現を支援

提供プログラムの構造と普及



第1期メンバー発表 / Part 2 Networking
 コメント
 HAYASHI Mahoto



Funding opportunities are crucial for earlier career researchers

- Expand network through keeping our cross-talk & more (e.g., involving multiple universities in HeKKSaGOn and multidisciplinary talks, enhancing the website to show research interests of members & contact each other)
- Exchange opportunities for students (e.g., taking lectures and dual degree program and ECRs (e.g., giving lectures to other university students))
- Working groups managed by early career researchers

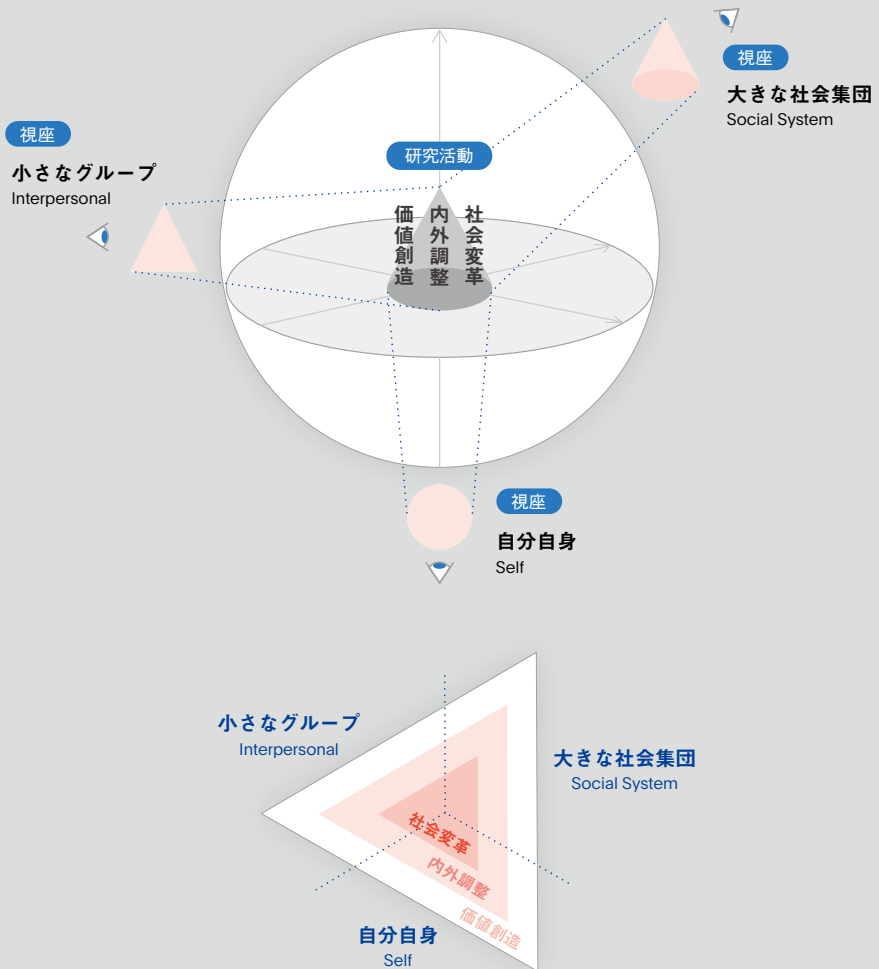
→ Funding opportunities targeting early career researchers

- Each of the six universities has funds that help ECRs to find partners, discuss the research ideas and start collaborative work, which leads to get external funds (e.g., HeKKSaGOn version of ASDA (e.g., 10,000 euros per year))
- Researchers from diverse research fields and universities
- Topics (Transcultural studies, Data Science/AI, well-being, Engineering molecular systems)

Benefits include (i) the enhancement of the international visibility of HeKKSaGOn and its member universities, (ii) the increase in the number of international publications, and (iii) the sustainability of HeKKSaGOn.

基本理念と考え方

— 自己と世界を見据え、未来社会を学術で担う研究者へ —



L-INSIGHT が考える次世代の研究者

科学・学問に対する社会的要請は近年益々高まっており、次世代の研究者は世界を見据え、未来社会を学術で担う役割が求められます。L-INSIGHTでは、このような役割を担う研究者として長く活躍するためには、世界視力を身につけることが肝要であると考えています。

世界視力とは、「価値創造」「内外調整」「社会変革」といった研究活動上の3つの目的に対して、それぞれ「自分自身」「小さなグループ」「大きな社会集団」の3つの視座を掛け合わせた9つの属性で構成される枠組み（フレームワーク）で整理する行動特性（コンピテンシー）です。

L-INSIGHTではこのフレームワークを、個々の若手研究者が自ら長期的な目標を定め、どのような取組みやコミュニティで研鑽を積めば必要なコンピテンシーが備わるか、自己の現状を見極め、自ら活動改善を図るための基盤としています。

若手研究者の長期目標の実現を支援

—目標実現までのプロセスを自ら描く—

目標設定のプロセスとモデル化

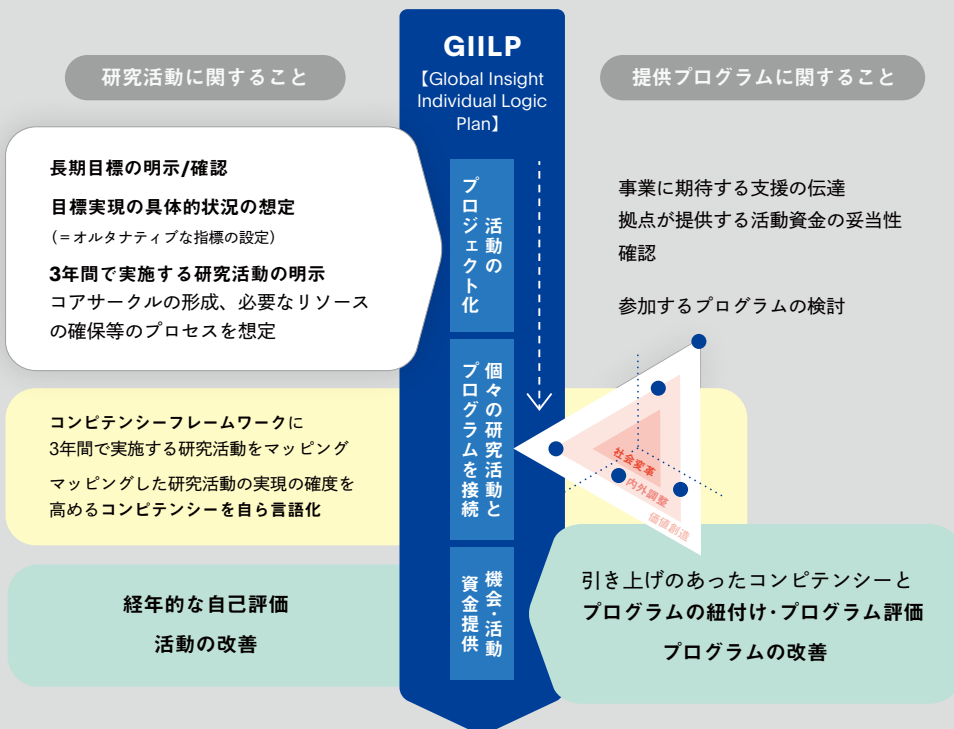
若手研究者のキャリアは昨今、多様化しています。彼らにとってのロールモデルの不在や、長期的展望の維持を揺るがす現状を踏まえ、L-INSIGHTでは、若手研究者の主体性を活かし、その潜在能力を最大限に引き出す育成プログラムを開発したいと考えています。そのため、京都大学の志の高い若手研究者（L-INSIGHTフェロー）とともにプログラムの実証を行なっています。

L-INSIGHTフェローは研究者としての長期目標と、その実現に向けて取り組むべき活動を想定し、一連のプロジェクトとして実施します。令和6年度からは、研究者のコアサークル（p.14参照）を形成することを長期的目標の実現に向けた活動の中心に据え、到達点の一つとしています。

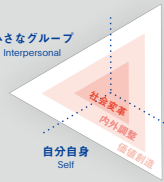
一連の自己分析ツールとして開発したオンラインツール（Global Insight Individual Logic Plan「GIILP」）を使用して、受講支援メンターやプログラム開発WGメンバーとの対話を通じて、各人に活動に必要なコンピテンシーを言語化します。毎年一回、実行した活動とコンピテンシーとを紐付けし、自己評価と経年的な自己改善に繋がります。

またGIILPは、提供プログラムが各人のコンピテンシーの向上・変化に与えた影響の可視化にも役立っています。拠点ではこの効果測定を通じ、プログラムの改善や、不足しているプログラムを検証しており、事業全体の改善に活用しています。GIILPは個々の研究活動と拠点をつなぎ、L-INSIGHTフェローにとって提供プログラム・資金支援の意義を最大化する役割を担っているといえます。ツールには下記の項目が含まれています。

毎年5月頃 対話を
通じて実施



プログラム開発の進行



コンピテンシー | フェロー定義による9つのコンピテンシー集約結果 (令和2-4年度分を令和5年度に集約)

価値創造	Self	学術と社会を俯瞰して研究テーマを考える能力、専門的な知識・技術をアップデートしていく能力、セルフマネジメント能力など
内外調整		基礎研究と応用・社会貢献のバランスをとる戦略性思考、外部コミュニティや研究者とのネットワーキングとコミュニケーション、業務・研究時間の管理など
社会変革		研究の価値を社会の中で位置づけ、研究課題を見出す能力、研究におけるアカデミア内外に対するリーダーシップ、高い成果発表能力、主体的なキャリア・人生設計など
価値創造	Inter-personal	専門内外の研究人脈をつくる能力、他の研究者と連携して共同研究を始動する能力、コミュニケーション能力、学生を育てる能力など
内外調整		学生のやる気を引き出し、能力を高める指導能力、チームと個のパフォーマンスを上げるマネジメントなど
社会変革		当事者、研究者、企業と社会実装を行う能力、協力や情報発信のためのネットワーキング、一般や異分野に向けた説明能力、プロジェクトマネジメントなど
価値創造	Social System	社会に関わる研究課題の構想力、他分野の研究者などと研究テーマを開拓する能力や協力体制を構築する能力など
内外調整		外部の価値観を理解して、外部と連携しながら活動する能力、メンバーに適切な指導・対応をする能力、共同研究のマネジメント能力など
社会変革		国内外や異分野間を含めて研究コミュニティをつなぐ能力、分野間の橋渡しやアウトリーチ、政策提言をする能力、地域の人や産学連携で社会実装を実行する能力など

これらのコンピテンシーは、2020年台の若手研究者が研究活動の推進に必要としたコンピテンシーであり、大学院生等の取り組みにおいても大いに参照し得るマインドセット・スキルセットであると考えています。

プログラム評価 | 9つの属性とプログラムの紐付け (抜粋) | 2023年5月集計

プログラム	実人数	価値創造	内外調整	社会変革	価値創造	内外調整	社会変革	価値創造	内外調整	社会変革
		Self			Interpersonal			Social System		
受入時ヒアリング / GIILPヒアリング	21	0.4	0.5	0.3	0.3	0.5	0.2	0.4	0.4	0.3
名誉教授メンタリング	20	0.3	0.4	0.3	0.4	0.3	0.2	0.2	0.2	0.3
合同ミーティングプログラム	21	0.0	0.1	0.0	0.3	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0
アドバイザーボード交流会	14	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.2	0.3
フェロー提案プログラム	18	0.1	0.2	0.1	0.3	0.3	0.2	0.1	0.1	0.2
企業来学レクチャー	12	0.1	0.2	0.1	0.1	0.3	0.1	0.0	0.3	0.0
京都大学が世界に誇る研究者に学ぶ	7	0.7	0.1	0.3	0.4	0.3	0.0	0.6	0.1	0.1
L-INSIGHTキャリアプログラム	8	0.0	0.4	0.1	0.3	0.4	0.4	0.1	0.1	0.3
グローバルフォワード豪州 現地フィールド	6	0.3	0.7	0.3	0.2	0.5	0.2	0.2	0.3	0.3
同 ジョイントミーティング・個別訪問	11	0.2	0.3	0.1	0.5	0.3	0.3	0.4	0.3	0.0
グローバルフィールド沖縄 ジョイントミーティング・個別訪問	9	0.3	0.2	0.0	0.3	0.2	0.1	0.1	0.2	0.1
グローバルフィールド北海道 現地フィールド	4	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.5	0.3	0.5
HeKKSaGON発展プログラム	12	0.2	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2	0.4	0.4	0.3
リーダーシップ強化プログラム (円卓会議)	6	0.2	0.2	0.3	0.0	0.3	0.2	0.2	0.0	0.2

—参加実人数に占めるフェローによる効果判定の割合— [効果チェック数/実人数]

前年度のプログラム参加において「駆動され、引き上げられたコンピテンシー」としてチェックされたプログラムを累計し、プログラム参加実人数で除した値。プログラムへの参加人数がプログラムごとに異なるため割合で示す。同一のフェローが複数回参加をした場合も1人とカウント (地厚人数)。同一フェローが同じ属性に複数回チェックを入れた場合も1とカウントしています。

提供プログラムの構造と普及

—異なる形式のプログラムでコアサークル形成を後押し—

3つのプログラム群

L-INSIGHTでは、学術だけでなく、産業や社会に対して世界的に貢献するための目標を自ら定めるとともに、研究者のコアサークル*を形成することも到達点の一つに設定しています。その達成に必要な視座、知識、行動といった世界視力を高めるのが、3つの柱で構成されるプログラム群です。

- ① 世界視力への理解を深め、実践に必要な能力を養う「基幹プログラム群 (Core Programs)」
- ② プログラムでの経験と研究活動をスムーズに繋ぐ「CToP (Core to Practical)」
- ③ 実践の場で行動を通じて世界視力に磨きをかけながら、自在に発揮する能力を養う「実践プログラム群 (Practical Programs)」

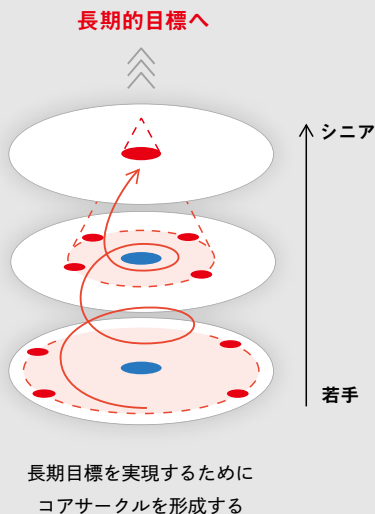
研究活動との接続にあたっては、名誉教授メンターが長期的な視座から対話を行い、プログラムの参加にあたっては、受講支援メンターがバックアップします。また、研究成果の発信に必要な費用を毎年上限を定めて提供しています。

プログラムの普及について

提供プログラムは研究者のコアサークル形成に資する機会創出や個々の研究活動をバックアップすることを主眼としています。フェロー以外の研究者や大学院生でも希望をすれば参加可能なプログラムも、基幹プログラムを中心として提供されています。今後も引き続き、フェローや連携機関に所属する研究者に限らず、広く活用頂けるプログラムとして普及のための改善を進めていきます。

研究者のコアサークル

- 各研究分野では、最新の研究成果に関するリアルタイムでの情報共有や最重要な国際会議・国際シンポジウム等の企画などを行う世界第一線の研究者グループ、いわゆる「コアサークル」がある。
- 世界視力を備えた次世代トップ研究者になるためには、自身の研究分野のコアサークルの一員になることを目指さなくてはならない。
- それには、現時点から、将来有望な同世代の研究者とのネットワークを形成し、自身の研究分野において研究コミュニティの中心に入り込んでいく素地を作ることが重要。



詳細 2.

提供プログラムについて

基幹プログラム群

- C-1 | 豪州・国際連携プログラム
- C-2 | 欧州・国際連携プログラム
- C-3 | OIST・国際連携プログラム
- C-4 | 産学横断プログラム
- C-5 | 世界に誇る研究者に学ぶ
- C-6 | L-INSIGHT キャリアプログラム

CToP

- CP-1 | 名誉教授メンター制度
- CP-2 | Global Insight Individual Logic Plan (GIILP) 面談
- CP-3 | L-INSIGHT ワークショップ

実践プログラム群

- P-1, 2, 3 | 研究費・渡航費・招聘費
- P-4 | 論文投稿支援
- P-5 | フェロー提案プログラム
- P-6 | 融合研究着想コンテスト



パートナー機関 メルボルン大学との協働が創出する、実験的で多層的なプログラム

豪州メルボルン大学との協働により、多様かつ実験的な機会を継続的に提供しているプログラムで、令和元年度の本学若手研究者による訪問以降続いています。メタバース空間での異分野学術交流などを経て、令和4年度にフェロー・大学院生による現地訪問が再開しました。豪州の社会背景と強みを活かした研究分野の研究者・専門家による講義と議論、研究会および若手間交流のほか、自身の専門に関連する研究室の訪問を行っています。

目的 近視眼的な共著論文の発表ではなく、多様なアプローチで広範な課題を共有し、研究者としてのキャリアを通じた持続的な関係を築けるコアサークルを構築する

- 活動**
- フェローが座長を務め、学際的テーマでフォーラムを開催
 - ・議論のテーマは各グループの座長を務めるフェローが提示
 - ・フォーラム事前の数ヶ月間にわたって、メルボルン大学でのオンラインセミナーで参加フェローが順次講義
 - 多文化主義国家であるオーストラリアならではの「社会の中の研究」「研究の中の社会」から学びを得る機会として、疫学や文化人類学、都市計画等の講義や議論、現地見学を実施（写真は令和4年度の例）
 - フェローが関係を築きたいメルボルン大学研究者を個別訪問（研究者マッチングの支援あり）



- 活用法・成果**
- 外部資金での既存の共同研究者とは異なる人的関係資本の構築
 - 研究室訪問に合わせた講演会への登壇
 - 異分野異文化の研究者との議論による長期的テーマにまつわる課題の棚卸し
 - オーストラリアの強み分野のデータ等へのアクセス開拓

この活動で期待される効果*

Self × 内外調整

チームの能力を高める指導能力、チームと個のパフォーマンスを上げるマネジメントスキル

Interpersonal × 内外調整

基礎研究と応用・社会貢献のバランスをとる戦略性思考、外部コミュニティや研究者とのコミュニケーションスキルの向上

*期待される効果についてはP.13を参照して下さい



欧州・国際連携プログラム

C-2

京都大学欧州拠点、ハイデルベルグ大学・カールスルーエ工科大学・ゲッティンゲン大学との連携で実現する、挑戦的プログラム

ドイツ・ハイデルベルグに設置されている京都大学 欧州拠点の協力のもと、HeKKSaGOn* (日独6大学アライアンス) に加盟するハイデルベルグ大学、カールスルーエ工科大学、ゲッティンゲン大学と綿密な連携を図り実現するプログラムです。フェローが座長を務める学際フォーラムには、幅広い分野の研究者が複数の機関から集まり、分野を超えたコアサークルの形成のきっかけになっています。また、自身が関係を築きたい欧州圏内の研究者・研究室の個別訪問も行い、共同研究や、欧州・日本でのセミナーの共同開催へと繋がっています。

*日本とドイツの科学と知識の進歩向上を目指す学術交流を目的として2010年に設立

活動

- フェローが座長を務める学際的テーマのフォーラム「Dialogues for Future Research and Science with Early Career Researchers」を開催
 - ・議論のテーマは各グループの座長を務めるフェローが提示
 - ・各グループにコメンテーターとしてシニア研究者を配置
 - ・京都大学欧州拠点とドイツ3大学（ハイデルベルグ大学、カールスルーエ工科大学、ゲッティンゲン大学）が各グループのテーマにあわせ研究者マッチングを支援
 - ・これまでにフェロー16名が座長を勤め、ドイツ12機関65名が登壇、292名が聴講
- テーマに関連して、自身が関係を築きたい欧州国内の研究者を個別に訪問
- 日独6大学学長会議（隔年開催）に登壇



取組みの流れ

4月	6-7月	8月	9-10月	11月
参加希望 事前照会	現地との 調整	L-INSIGHT内 ワークショップ	研究者マッチング・現地 研究者とのグループ顔合わせ	現地研修

活用法・成果

- 共同研究の開始
 - ・“Estimating heterogenous treatment effect” - ゲッティンゲン大学病院
 - ・“Survival strategies of microorganisms living on plant leaves and their application to agriculture” - カールスルーエ工科大学
 - 現地 / 日本でのセミナー共同開催
 - ・“Approaches in Environmental and Wildlife Conservation” - マックスプランク等
 - ・“Advances in Imaging Across Micro and Macro Scales” - エアランゲン大学病院等
- 他多数

この活動で期待される効果

System × 価値創造

社会に関わる研究課題の構想力、他分野の研究者などと研究テーマを開拓する能力や協力体制を構築する能力 など

System × 内外調整

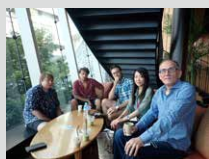
外部の価値観を理解して、外部と連携しながら活動する能力、ステークホルダーのある共同研究や現地実践やマネジメント能力 など

C-3

OIST・国際連携プログラム

本事業のパートナー機関である沖縄科学技術大学院大学（OIST）と様々な形式で行われる連携プログラムで、令和元年度に同大学の若手研究者有志が主宰する研究会にL-INSIGHTメンバーが参加して以来続いています。現在、メタバース空間での学术交流や、個別の交流支援が実を結び、研究資金の獲得、共同研究の開始、シンポジウムでのパネリストとしての招聘など、多様なネットワークが構築されています。

- これまでの取組み
- 京都大学、およびパートナー機関である大阪大学・神戸大学の研究者を対象とした、OIST所属研究者によるワークショップ（令和2年度）
 - メタバース空間での分野横断型ポスターセッション「OIST & Kyoto University Joint Meeting」（令和2年度）
 - OISTでの現地フィールドプログラム（令和3年度）
 - フェローによるOIST研究者個別訪問の支援（令和4年度）



C-4

産学横断プログラム



パートナー機関である三井化学株式会社（令和元年度～）、キリンホールディングス株式会社（令和2年度～）、株式会社島津製作所（令和3年度～）等と協力し、セクターを超えた視点の獲得・強化を支援し、産学交流の礎を作るためのプログラムです。今後は、本事業が持つ学内のネットワークや、国外でのネットワークを活かした更なる産学横断プログラムの企画・開発を目指します。

- これまでの取組み
- フェローとパートナー企業の若手研究開発担当者・幹部役員による意見交換会
 - 企業来学レクチャー（令和3年度：三井化学、キリンホールディングス、令和4年度：島津製作所）
 - 産学横断実践リーダーシップ強化プログラムにおける、アンコンシャスバイアスに関する円卓会議（令和3年度：朝日新聞東京本社、令和4年度：三井化学、キリンホールディングス、島津製作所、北海道大学ダイバーシティ研究環境推進室）





世界に誇る研究者から学ぶ

C-5

世界視力錬成プログラム（対話型）

日本が世界に誇るトップ研究者が、参加する若手研究者の目標や課題に合わせてカスタマイズしたワークショップを実施します。トップ研究者が大切にしてきた考え方・やり方を、少人数で詳しく伝授していただきつつ、世代を超えて変わらないこと・変わっていくことを先取の気概で議論する、「今日から研究に活かせるプログラム」です。令和5年度に開催された第2回は、本事業のパートナー機関である大阪大学・神戸大学、また京都工芸繊維大学の若手研究者もフェローと共に講義に参加しました。

講義内容

- トップ研究者による100% テーラーメイドの講義
- 講義パートは、京都大学の動画ポータルサイト（KyotoU Channel）や、京都大学公式YouTubeチャンネルにて公開



取組みの

5月

流れ

GIILP面談においてフェローの
目標や課題を抽出

講師調整

参加フェロー
情報共有

ワークショップ
交流会

動画公開

過去の

第1回 講師 森和俊 教授（京都大学 理学研究科）

開催

第2回 講師 加納学 教授

（京都大学 情報学研究科、クアドリティクス株式会社・共同創業者）

参加者の声

「成功体験ばかりが聞かれるイベントは多いが、このプログラムでは研究の先輩が本当に辛かったことや最悪の状況話を話してくれた。そうしたタイミングが来たら、今日の話思い出そうと思う。」

この活動で期待される効果

Self × 価値創造

基礎研究と応用・社会貢献のバランスをとる戦略性思考、外部コミュニティや研究者とのコミュニケーションスキルの向上

System × 価値創造

社会に関わる研究課題の構想力、他分野の研究者などと研究テーマを開拓する能力や協力体制を構築する能力など



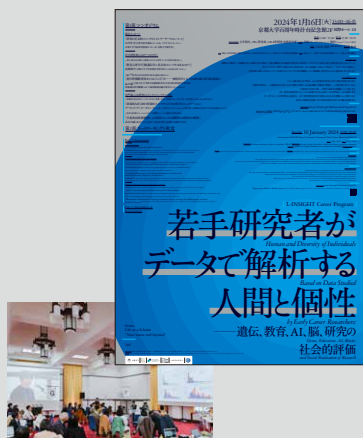
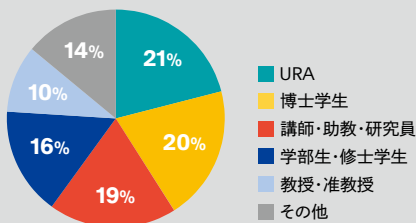
世界視力錬成プログラム (セミナー型)

世界を活動の舞台にする若手研究者が、自身の経験を踏まえた視点をケースとして若い世代に向けて共有し、全体と個、競争と共存の日々の間で自らのキャリアと研究課題をいかに展望するのか、今日的で現実味のある戦略を共に考えます。これまでに、国内外機関からおよそ400名の聴講者が参加する日英バイリンガルのイベントです。第一線で活躍する研究者を囲みでのグループディスカッションでは本学若手研究者がファシリテーターとして活躍し、海外出身研究者からもネットワーキングの機会として支持されています。

活動

- 世界を舞台に活躍する若手研究者を招聘、国際的な研究活動における具体的課題をケーススタディとして議論
- テーマについて専門的に取組む研究者の話題提供により、課題を精緻化
- 京都大学白眉センターや大学院教育支援機構等と連携し、分野・世代を超えた幅広い参加者が議論に加わる
- 大学院生等を対象にグループファシリテーターを10名程度公募し、事前ワークショップを開催
- フェローや本学の海外出身研究者・留学生、幅広い層の学外参加者を交えネットワーキング

参加者の割合



過去の開催

- 第1回 「若手研究者の海外留学・海外転職、再考—パンデミック後の研究キャリア選択」(2期 井上浩輔フェローが話題提供)
- 第2回 「若手研究者がデータで解析する人間と個性—遺伝、教育、AI、脳、研究の社会的評価」(1期 高橋雄介フェローが話題提供)

この活動で期待される効果

Interpersonal × 内外調整

チームの能力を高める指導能力、チームと個のパフォーマンスを上げるマネジメントスキル

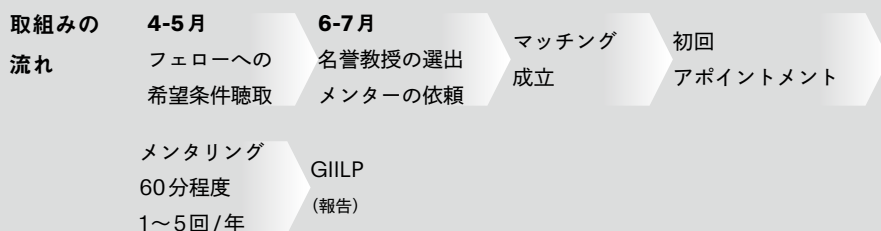
Interpersonal × 社会変革

当事者、研究者、企業と社会実装を行う能力、協力要請のためのロビーイングや一般や異分野に向けた説得能力など

名誉教授メンター制度

対話による支援の一環として、各フェローが求めるメンターの諸条件を聴取し、適合する名誉教授の選出とマッチングを行っています。名誉教授メンターは、所属や分野を超えて中立的な立場でフェローと対話し、フェローが自らの成長に必要と考える課題等に対して助言を行います。両研究者の対話は、制度を超えた人間関係に成り立つことを尊重し、面談の頻度・内容については、各フェローが自身のメンターと柔軟に設定できるようにしています。

- 活動**
- 名誉教授が所属や分野を超えた中立的な立場でフェローと対話。フェローは長期的目標の実現に向けた助言などを得て、自身の自己評価と行動改善を促進
 - メンターとなる名誉教授は、研究分野の遠近度や話したい内容など、フェローの希望に応じてマッチングを行い、マッチングが成立しメンタリングが開始された後は、毎年両者に継続の意向を確認
 - ミスマッチングや面談の調整が困難になった際は、フェローへの個別相談を行い、メンターの変更を含めた適切なフォローを実施



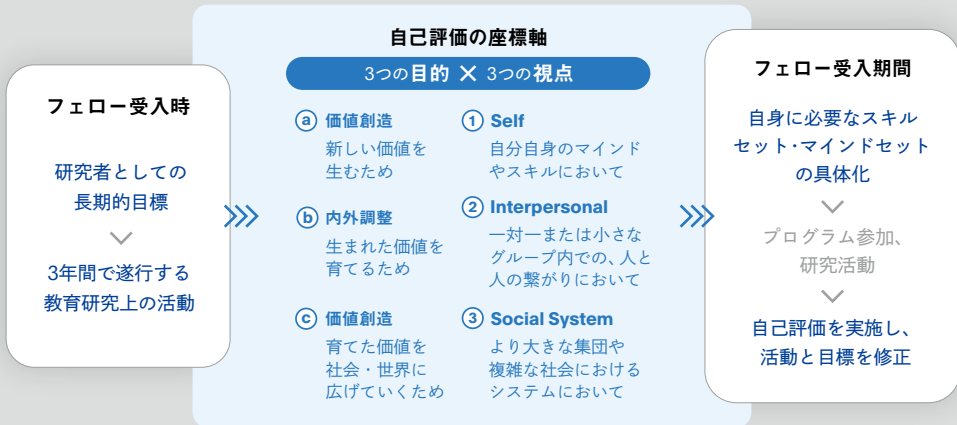
- フェローのコメント**
- 「今の自分の立ち位置を確認し、その時点で確認するメルクマールになっている」
- 「現在とは異なる時代の実例を聞いて、自分にとってタブー視していたやり方に可能性を見出す」
- 「自分ももっていなかった発想を聞き、こんなこともやっていたいいんだと思える」
- 「ボスと異なる方面へと研究の幅を広げることに躊躇していたが、背中を押しもらった」

世界の先進事例を基盤としたスキルセット・マインドセットについて、令和2年度に第1期フェローと議論を行ったところ、優れた若手研究者であれば、個々が必要とするコンピテンシーの言語化は自身が行うことが妥当であり、研究活動との連関があってこそ価値があるとの考えが示されました。これを受け現在のコンピテンシー・フレームワークを設計、その言語化と自己評価のプロセスを体系化し、面談と併用するツールであるGIILPを合わせて開発。令和4年度はオフラインでのシステム運用を実施、令和4年度中に独自のオンラインシステム開発を行い、運用を開始しています。現在までにおよそ70回の面談を実施し、記録データを分析しています。

活動

- 目標や活動の設定を4月末から5月末までに全フェローに対して60分から90分間を目安に実施 (GIILP面談・受入時面談)
- 面談は受講支援メンターを中心に実施。拠点長や名誉教授メンターから助言を受けることも可能
- 長期的目標に対して、フェロー期間3年間でめざすコアサークル形成のプロセスを検討。活動遂行の確度を高めるコンピテンシーを言語化し、自己評価とプログラム評価に活用、年度に参加するプログラムを検討
- オンラインシステムに記録し、翌年以降のヒアリングで経年的に活用

取組みの流れ



フェローのコメント 「どのような行動をすれば、どのようなことが身につくのかを知っておくことで、将来、何かをできるようになるためにどのような行動をすればよいかの判断ができる」

「言語化するから大型資金が取れ、資金が取れているから言語化できている」

「将来新しいポジションを得るにあたって聞かれるであろう内容が網羅されている」

「ゆくゆくは研究室における標準的な取り組みになってほしい」

「タイム対パフォーマンスが高い取り組み」

L-INSIGHT ワークショップ

オリエンテーション（4月）

本事業に新たに加わったフェローを対象に、年度始めに行うオリエンテーション。第1部では、拠点長や運営担当者から、事業概要、実施体制、当該年度の提供プログラムの詳細等を説明します。第2部では在籍フェローも加わり、新規加入フェローが自己紹介・研究紹介を行います。この機会は、新たに加わったフェローにとって、同期フェローだけでなく在籍フェローとのコミュニケーションや関係構築のきっかけにもなっています。

フェロー研究会（毎月）

コロナ禍における国内外の渡航制限で実施できる活動活動の減少した中、それを補うための企画として、フェローが自ら小規模の交流機会を計画しました。毎月フェローが輪番で座長を務め、自身の研究から話題を提供します。専門分野を異にするフェロー同士で議論を深め合うワークショップとなっています。

フェロー報告会・総会（3月）



在籍・修了フェローをはじめ、本事業のパートナー機関関係者、アドバイザーボードメンバー、名誉教授メンター、運営・推進委員等が一堂に会します。フェロー報告会では、その年度がプログラム最終年度となるフェローが登壇し、目標に対する3年間の研究活動におけるアチーブメントについて報告します。総会では、拠点長が当該年度の総括と次年度の計画を発表し、参加者による意見交換を行います。令和5年度は事業中間評価の結果についても報告を行いました。会終了後には懇親会を実施し、フェローと学内外の事業関係者が交流を深める機会となっています。



令和5年度フェロー報告会・総会には、大阪大学理事・副学長尾上孝雄教授、株式会社島津製作所基盤技術研究所脳五感ユニット長務中達也様、OIST研究担当ディーン ニコラス・ラスカム教授（当時）もご参加くださり、激励のコメントをいただきました。

P-1, 2, 3

研究費・渡航費・招聘費

スタートアップ研究費支援（1～2年目）

各フェローが、3年間のプログラムを通じて目標とするネットワークの構築・強化に必要な研究等を実施するためのスタートアップ研究費。渡航・招聘等の旅費として活用することも可能。1～2年目での申請・使用を推奨しています。

渡航による活動費支援（2～3年目）

各フェローが、最先端の知識や技術を共有し、国際的な研究実績を積むネットワークを掲載するために、自身の専門分野で将来活躍されると期待される同世代の研究者との交流や、国際学会での合同発表、国外での共同研究等を行うための海外渡航・滞在を支援。フェロー自身がGIILPに記載した活動・目標に則した計画で、2～3年目に申請・使用することを推奨しています。国際連携研修を通じて知り合った研究者との関係を継続するための渡航も可能です。

招聘による活動費支援（3年目）

各フェローが、研究者間のネットワークの更なる強化を目指し、1～2年目で関係を築いた研究者や、自身の専門分野で将来活躍されると期待される同世代の研究者を国内に招聘し、研究成果発表会を開催するための支援。原則として、招聘研究者には国外の研究者を2名以上含むこととし、予算の上限内で国内の研究者を招聘することも可能。フェロー自身がGIILPに記載した活動・目標に則した計画で、3年目に申請・使用することを推奨しています。

活用法・
成果

渡航によるネットワーク形成

- 業界トップ企業訪問（ドイツ / 雑草学）
- 研究会参加による人脈形成（アメリカ / DNA修復）
- 現地ステークホルダーとのワークショップ開催（メキシコ・エルサルバドル / 防災教育）

招聘によるコミュニティ形成

- ヒト画像研究国際シンポジウムの開催（アメリカ・中国・カナダ / 精神医学）
- 留学中に知り合った研究者の短期滞在招聘・学会費提供（韓国 / 癌個別化医療）
- 国際セミナーの開催（アメリカ・オーストラリア / 進化遺伝学）



論文投稿支援

P-4

活動促進支援

フェローの研究活動の国際的なヴィジビリティを上げ、国内外の研究者とのネットワーク構築をサポートするための、研究成果の発信を支援しています。特に、フェローが筆頭著者あるいは責任著者として国際学術雑誌に論文投稿する際に必要な論文投稿料、オープンアクセス料、英文校閲費等を支援しています。

これまでの ●国際誌論文投稿21件、科学イラストの作成支援8件、英文校閲4件、等
支援例 ●その他、動画制作17件、HP制作9件

掲載誌 (抜粋) : JAMA Internal Medicine, Circulation, FEMS Yeast Research, ChemBioChem, Personality and Individual Differences, Journal of the American Heart Association, Separation and Purification Technology, Environmental Research Letters, ACP Publication, Scientific report, Water Research, PLANT PHYSIOLOGY ONLINE, JAMA Health Forum, Journal of Applied Ecology, Frontiers Media SA, The Astrophysical Journal Letters, Transplantation and Cellular Therapy, Cell Reports Article Publishing, Transplantation and Cellular Therapy, BMC Medical Research Methodology ほか

フェロー提案プログラム

P-5

活動促進支援

フェローから寄せられた要望や、フェロー自らの企画・提案、国内外各地をフィールドとした実践を通して、自らの実力を試す新しい試みを支援しています。

これまでの ●フェロー間における研究発表・意見交換の場 (令和4年度より前述の「フェロー研究会」として制度化、P.23参照)
支援例 ●資金獲得前のネットワーク形成を目的とした、若手研究者の交流機会
●メキシコでの官・学・地域社会を交えたワークショップ (令和4年度)
●北海道での京都大学若手研究者・大学生、地元住民らによるビジョナリーワークショップ (令和4年度)
●「研究者の、研究者による、次世代研究者のための研究指導を考える」ワークショップ (令和4年度)
●フェロー間における異分野融合研究の醸成機会 (令和6年度より「融合研究着想コンテスト」として制度化、P.26参照)



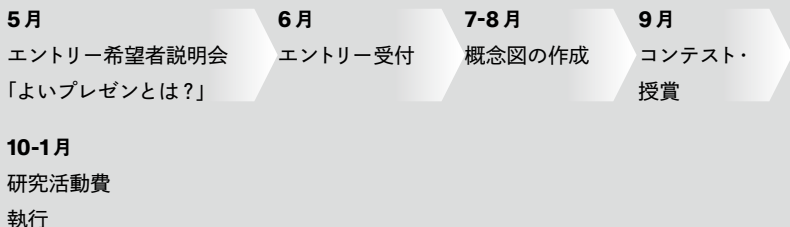
活動促進支援

専門分野が異なるフェロー同士が、将来的に各々の研究にブレークスルーをもたらす第一歩となる異分野融合研究の可能性を探索し、1枚の概念図を用いたピッチプレゼンテーションでそのアイデアを競い合うコンテストです。フェローから寄せられた提案をもとに、多様な分野からなるフェローのコミュニティの活動促進がもたらす創発的効果に期待し、令和6年度から開催。審査は、拠点長や本学理事をはじめとした学内外の幅広い分野の研究者によって行われ、会場の招待参加者も投票に参加できます。受賞グループには、研究活動費を授与します。

内容

- 各チーム、代表者（1名）および共同提案者（1名以上）となるフェロー2名以上で構成。フェロー以外の京都大学所属の教職員や、フェローが推薦する京都大学大学院生もチームに参加可能
- 概念図の作成とプレゼンテーションに向け、説明会とレクチャーを実施
- 審査は、拠点長をはじめとした学内外の研究者によって行われ、京都大学の白眉センターやWPIに所属する研究者、フェローが招待する京都大学所属の教職員・大学院生を含む会場の招待参加者も投票に参加できる
- 受賞グループには、研究活動費（大賞1件100万円・審査員賞2件各50万円）を授与

取組みの流れ



令和6年度 審査委員（予定）

- ニコラス・ラスカム 沖縄科学技術大学院大学（OIST）ゲノム・遺伝子制御システム科学ユニット教授
- 安浦寛人「世界で活躍できる研究者育成プログラム総合支援事業」プログラム・ディレクター（PD）、九州大学名誉教授
- 北川進 京都大学理事（研究推進担当）・副学長、高等研究院特別教授
- 喜多千草 文学研究科副研究科長
- 沼田英治 京都大学学術研究展開センター融合研究創成部門長
- 石川冬木 京都大学副学長（学術研究支援担当）、学術研究展開センター長、若手研究者戦略育成拠点長

協力

宮野古樹 京都大学学際融合教育研究推進センター准教授



名誉教授メンター（退職時の所属）

阿形清和* 理学研究所
井手亜里 工学研究科
岡田憲夫* 防災研究所
小川 修 医学研究科
皆藤 章 教育学研究所
小泉昭夫 医学研究科
坂井義治* 医学研究科
佐藤文彦* 生命科学研究科
杉山雅人 人間・環境学研究科
積山 薫 総合生存学館
瀬原淳子 医生物学研究所
寶馨* 総合生存学館
田中耕司 東南アジア研究所
中尾一和 医学研究科
橋田 充 薬学研究科
平岡眞寛 医学研究科
間瀬 肇* 防災研究所
山極壽一* 理学研究科
余田成男 理学研究科
吉川左紀子* こころの未来研究センター

アドバイザーボード（順不同）

宇佐美文理
小田一郎*
尾上孝雄
狩野光伸
柴田真吾
高見義之*
西嶋一欽*
沼田英治
深田浩司*
藤森義弘
務中達也
横山昌人
David Budtz PEDERSEN*
Meng Ling MOI*
Michael USEEM*
Roger GOODMAN*

外部評価委員

磯谷桂介
亀井加恵子
永野 博
辺見昌弘
David Budtz PEDERSEN

（以上、五十音順）

*2023年度以前に任期を終了した方々

L-INSIGHT事務局

プログラム開発ワーキンググループメンバー

拠点長 石川冬木
統括マネージャー URA 鮎川 慧
統括マネージャー URA 菅井佳宣
担当 URA 齊木あや
受講支援メンター 特定准教授 仲野安紗

事務局

特定職員 寺澤映美
派遣職員 類家麻希子
研究推進課 米井 進
研究推進課 土屋 悠
研究推進課 吉元幸司

事業実施報告書 2024

2024年9月30日 発行

監修

仲野安紗 | 京都大学学術研究展開センター (KURA)

編集・執筆

仲野安紗、齋木あや、鮎川慧 | 京都大学学術研究展開センター (KURA)

制作協力

菅井佳宣、若松文貴* | 京都大学学術研究展開センター (KURA)

研究推進部研究推進課

*2023年度構成員

冊子デザイン

仲村健太郎、横山新 | Studio Kentaro Nakamura

発行

京都大学若手研究者戦略育成拠点

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

本冊子に関するお問い合わせ

京都大学若手研究者戦略育成拠点 L-INSIGHT 事務局

l-insight@info.kyoto-u.ac.jp